

先進地紹介

宇都宮市における公共交通を軸にしたまちづくり

日立市都市建設部都市政策課 主事 吉田 昭 洋

令和6年1月17日に、令和5年度第2回まちづくり拝見研修会（宇都宮市）に参加しました。

■宇都宮市の概要

宇都宮市は、JR宇都宮駅の西側に位置する二荒山神社を中心に駅前町として繁栄してきた歴史があり、令和5年12月1日現在、人口約51万人の中核都市となっています。宇都宮市でも全国の地方都市と同様に、総人口が減少傾向にあり、これまでの人口増加やマイカーの普及に伴う市街地の拡大及び密度の低下が課題となっています。

そこで宇都宮市では、市街地中心部や身近な地域拠点の魅力を高め、公共交通を使いながら行き来しやすいまちに変えていくため、望ましい姿として「ネットワーク型コンパクトシティ（NCC）」を目指したまちづくりが進められています。

■宇都宮市の公共交通

宇都宮市のまちづくりを語るうえで欠かせないのが「公共交通」です。令和5年8月26日に開業した芳賀・宇都宮LRTを東西移動の基幹公共交通に位置付け、LRTの停留場からバスや地域内交通が各地区への移動を補完する「階層性のある効率的な公共交通ネットワーク」を構築しています。

LRT開業後の状況としては、利用者数が、平日・休日を問わず1日平均で約12,000人となっており、通勤・通学だけでなく、日常利用が浸透しています。また、乗り継ぎ拠点となる交通結節点（トランジットセンター）に設置した駐車場も好調で開業3か月で駐車場を増設する状況となっています。

■JR宇都宮駅東側のまちづくり

宇都宮市では、上述の公共交通を軸に拠点形成の取り組みが進められています。

LRTの平石停留場の北側では、東部総合公園の整備が計画されています。整備手法には、Park-PFIを活用し、「交流とにぎわいを創出する機能」としてアーバンスポーツ施設、「地域の振興につながる機能」として飲食店や農産物の直売、「公園機能」として芝生広場等を備えた複合的な公園施設となる予定です。

またLRTのゆいの杜停留場の周辺では、平成9年

から平成25年までの期間で、宇都宮テクノポリスセンター地区区画整理事業（177.2ha）が実施され、産・学・住・遊を結び付けた高次な都市機能の集約が図られています。事業後すぐは、居住が進まない時期もありましたが、現在は、子育て世帯に人気で子供が急増しており、令和3年には小学校が新設されるなど活気のある様子が窺えました。



宇都宮駅東口LRT停留場の様子



新設された小学校

■JR宇都宮駅西側のまちづくり

駅西側では、LRTを基軸とした公共交通と一体となった都心部の更なる活性化に向けて令和4年2月に「都心部まちづくりビジョン」策定しています。

ビジョン実現に向けて、附置義務駐車場の設置基準の緩和による過度な自動車流入の抑制や優良建築物等整備事業において壁面後退などの「公共貢献メニュー」に取り組むこと等を要件とする施策が実施されています。

■おわりに

宇都宮市では、LRTなどの公共交通の発展が、まちづくりの面においても拠点形成や地域拠点での居住促進といった



研修会の様子（清原地区市民センター前）

好循環を生み出しており、NCCの実現に向けた取り組みが推進されていました。今回の研修会では、強みを生かすことでまちの賑わいが創出されていく様子を拝見することができ、参考になりました。

